

第4回 ともいき 共生・地域文化大賞

<http://tomoiki.jp/>

大賞に NPO日本語支援「てらこや塾」

主催・浄土宗／後援・財団法人全日本仏教会／特別協力・総本山知恩院／運営・特定非営利活動法人きょうとNPOセンター



知恩院御影堂で行われた授賞式。大賞をはじめ各賞に選ばれた団体、関係者一同

共生の心を具現化している団体を顕彰、支援する「共生・地域文化大賞」（主催＝浄土宗・第4回）に、10月11日、「NPO日本語支援『てらこや塾』」が選ばれた。最終選考会の模様と、優秀賞、奨励賞受賞団体などを紹介しよう。

共生・地域文化大賞は、浄土宗が法然上人八百年大遠忌を記念し、浄土宗21世紀劈頭宣言の精神である

「共生」を具現化するNPOやボランティア団体を顕彰、支援するために創設した賞。表彰部門、企画助成部門、アイデア部門の3部門からなり、表彰部門の応募団体の中からもっとも評価の高い団体に「共生・地域文化大賞」が贈られる。

今回は表彰部門に67団体の応募があり、学識経験者や浄土宗関係者からなる選考委員会（堀田力選考委員長・「法然上人をたたえる会」会員）が2次選考で9

団体を選定、10月11日、宗務庁（京都）で最終選考会を公開プレゼンテーション（自己アピール・活動説明）方式で開催した。会場には応募団体関係者も含め約90名が集まり、各団体によるプレゼンと選考委員との質疑応答が行われた。会場の参加者は一般審査員として参加、一票を投じ、その後開かれた選考委員会の判断の参考に用いられた。

その結果、大賞には、三重県伊勢市にある浄土宗慶藏院・前島格也住職が代表



大賞に選ばれた「てらこや塾」。(写真上)代表の前島師と塾に通う子ども(下2枚とも)勉強の様子

を務める「NPO日本語支援」で選ばれた。浄土宗関係者が代表を務める団体が大賞に選ばれたのは初めてのこと。同塾は昨年、助成部門に採択されている。

共生・地域文化大賞

NPO日本語支援「てらこや塾」(三重県伊勢市)

平成20年、3年前まで高校の教師であった前島住職が、来日7カ月で日本語がよく理解できない一人の中国人中学生から高校進学について相談を受けたことを契機に、一口千円の支援金を訴えて、その中学生を支援する集まりを作ったのが始まり。その後、同じ悩みを持つ、中国、フィリピン、シンガポール国籍などの子どもたちに、初歩から学習に必要な日本語までの教育、さらには、高校、大学進学に必要な学習までを、無償で教える「てらこや塾」を21年1月に発足させた。講師には会の趣旨に賛同した専門の日本語教師、学習支援者らが有償ボランティア

イアとして集まり、職員会議を開き、子どもたち個人の習熟度に合わせたきめこまやかな指導を行うほか、必要に応じて生活支援(病院や買い物支援など)も行っている。また、今年7月から日本人の子どもたちへの学習支援(無料)も本格的に開始した。

活動資金は支援者の支援金を主とするが、「大人のための英語教室(有料)」もその一環として開いている。

前島代表は「昨年、助成団体に選ばれたことが励みになりました。小さな寺の実践が、こんなに大きな賞をいただき本当にありがたいです。これからも必要ない人に、必要なことを、出来る者が、出来ることに取り組む、草の根からの活動を発展させていきたいです」と語っている。

【共生優秀賞】(3団体)

○一般財団法人まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス(京都市)
住み慣れた土地で健やかな生活を実現するために、

ボランティア仲間とともに世代間交流を図る事業や各種イベントを行う。まちの縁側クニハウス(名古屋千種区高見)と、まちの学び舎ハルハウス(京都市北区紫野十二坊町)が拠点。

○特定非営利活動法人なごみの里(島根県江津市)
最期まで自宅で暮らした

いという高齢者の希望、尊厳を重視する「看取り介護型」NPO法人として設立。病院と自宅の中間にあたる「看取りの家」を運営。地域住民で構成する「エンジェルチーム」と家族が、24時間365日の見守りを実現する訪問介護も行う。

○水橋ミニクラブ「アドベンチャーじょうじょう」(富山市)
近所付き合いの少ない新興住宅地(富山市水橋上条)

にあつて、地元寺院の境内や本堂を借り学童保育を行っている。子どもたちはもとより、その親も活動に主体的にかかわり、子どもとともに育つ場を作っている。

【共生奨励賞】(5団体)

○特定非営利活動法人心に響く文集・編集局(福井市)
○特定非営利活動法人福寿草の郷(石川県加賀市)
○特定非営利活動法人ワンファミリー仙台(仙台市)
○特定非営利活動法人佐渡の声(新潟県佐渡市)
○特定非営利活動法人エクスクラメーション・スタイル(京都府八幡市)
(表彰部門以外の受賞者・団体は下記に)